第２次 札幌市まちづくり戦略ビジョンを学ぼう

- 戦略ビジョンを知る
- まちづくりを考える
- 資料を見る

戦略ビジョンを知る

札幌市のまちづくりがどのように進められていくのか、
歴史や魅力、重要概念・プロジェクトなど
いろいろな視点から見てみよう！

- 歴史
- 魅力・特徴
- 人口 社会情勢
- 都市像 重要概念
- プロジェクト

いろいろな視点から札幌市を見てみよう！

まちづくりを考える

これからの札幌市のまちづくりについて、
自由な発想でレポートを作成してみよう！

これからの札幌を思い浮かべながら考えてね

レポート作成

資料を見る

札幌市についてのいろいろなデータや資料を見てみよう！

- グラフ データ
- イメージ 映像
- 関連サイト リンク集

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちとが、それぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れ、世界的な大都市へと飛躍的な発展を遂げてきました。

明治・大正

1869年（明治2年）～

開拓使が設置され、初代長官に鍋島直正が、判官に島義勇や岩村通俊らが任命されました。
観実地は北海道と改称され、島義勇らは本府地の選定を開始し、その後、東久世通禧や黒田清隆らが視察に訪れ、札幌への本府建設が決定されました。
黒田清隆は、ホーレス・ケプロンを始めとして、エドウィン・ダンなどのseveral外国人技師を雇い入れ、先進国の近代的な農工業の知識や経験、専門技術などを受け入れることにより、開拓の革新を図りました。

1876年（明治9年）

現在の北海道大学の前身である札幌農学校が開校し、マサチューセッツ州立農科大学からウィリアム・クラークを教頭として迎えました。

1886年（明治19年）

北海道庁が札幌に設置され、初代長官には岩村通俊が会ぜられました。

1897年（明治30年）の繁華街（南1西3）
©資料©札幌市

1922年（大正11年）

8月1日市制が施行され、当時の人口は127,044人（戸数22,915戸）、面積は約24㎢でした。

昭　和

1927年（昭和2年）

豊平町・琴似村・篠路村・白石村・札幌村の1町4村の一部を含む地域が都市計画区域に指定され、上下水道や道路の整備などが進みました。

1947年（昭和22年）

市長が初めて公選となりました。

1950年（昭和25年）

第1回さっぽろ雪まつりが開催されました。

1959年（昭和34年）～

海外の都市との交流も活発となり、ポートランド市（アメリカ合衆国）を始め、その後もニュンヘン市（ドイツ連邦共和国）、瀋陽市（中華人民共和国）と姉妹・友好都市 の盟約を結びました。

ポートランド市との姉妹都市提携盟約書の調印の様子
©資料©札幌市

1963年（昭和38年）

"札幌"をより豊かで明るく住みよいまちにすることを念願し、市民の総意として札幌市民憲章が制定されました。

1970年（昭和45年）

人口が100万人を超えました。

1972年（昭和47年）～

第11回冬季オリンピック競技大会の開催が決定すると、その開催施設のほか、市役所新庁舎、地下鉄、地下鉄などが整備され、都心の様相は一変しました。また、政令指定都市に移行し、中央・北・東・白石・豊平・南・西の7区体制となりました。

第11回冬季オリンピック競技大会
©資料©札幌市

平成・令和

1989年（平成元年）

人口の増加などを受け、白石区と西区を分区し、それぞれ厚別区と手稲区を設置しました。

1997年（平成9年）

豊平区を分区し、清田区を設置したことにより10区体制となりました。

2015年（平成27年）～

人口が195万人に達しました。
市民の生活意識や価値観が多様化する中、札幌コンサートホール（Kitara）やSapporo Dome、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）や札幌市民交流プラザが整備されるなど、市民生活の質的な充実が図られてきました。
また、さっぽろ雪まつり、国際教育音楽祭であるパシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）、YOSAKOIソーラン祭りなども、現在では国際的なイベントに成長しています。

札幌ドーム
©資料©札幌市

パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）
©資料©札幌市

2022年（令和4年）～

令和4年（2022年）8月1日、札幌市は、市制が施行されてから100周年の節目を迎えました。
次の100年も魅力と活力を創造し続けるまちであることを目指し、「「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ」の実現に向けた取組を進めています。

記念式典の様子
©資料©札幌市

ロゴマーク・キャッチフレーズ
©資料©札幌市

みんな、知ってる？

さっぽろまめちしき

「さっぽろ」の地名の由来は何？

「札幌」の地名の由来は、アイヌ語が元になっていると言われています。諸説ありますが、なかには、「サッ・ポロ・ペッ」（乾いた・大きな・川）とする説や、「サリ・ポロ・ペッ」（その葦原（あしはら）が・広大な・川）とする説があります。豊平川の乾いた扇状地の方を見て「サッ・ポロ・ペッ」、下流の湿地の方を見て「サリ・ポロ・ペッ」…どちらも納得！という感じですね。

札幌市は、豊かな自然環境に恵まれていて、四季折々の表情を楽しめる政令指定都市です。年間で約5mの降雪がありますが、雪も魅力の一つです。公共交通機関も発達していて移動もスムーズなので、観光客にも人気があります。

豊かな自然環境

みどり豊かな自然

札幌市は、市街地や郊外周辺にあり、豊かな公園・緑地が点在しています。市街地の周囲には多くの豊かな自然環境があり、四季を通じ様々な表情を見せてくれます。

<資料>国土交通省「令和2年度都市緑地の保全及び緑化の推進に関する取組の実績調査」
※数値不明の都市を除く政令指定都市及び札幌

豊平川

藻岩山から望む市街地

変化に富んだ気候

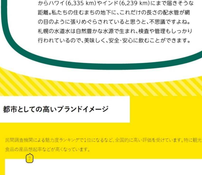
四季の変化が明瞭で、夏は涼しいですが、冬には雪に覆われます。年間5mもの降雪がありながら人口190万人を超える札幌市は、日本と世界の都市の降雪量を比較してみます。

各都市の月別平均気温
(℃)
35.0
30.0
25.0
20.0
15.0
10.0
5.0
0.0
-5.0
札幌
福岡
仙台
ソウル
東京
北京
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
-4.5
-3.5
0.3
4.5
10.1
14.5
18.9
20.7
16.5
10.3
3.7
-1.5
札幌は冬と夏で15℃も違って気温のレンジも大きいんだね
札幌市
札幌市の月別平均気温(令和2年)
※日本の気候値は主に1981～2010年の日本国内の主要都市における観測結果に位置する気象データの主要要素の月ごとの統計

都市機能が充実

地下鉄やJRなどの公共交通ネットワーク

地下鉄は札幌市営交通と民営鉄道の2社が運営しています。1日あたりの乗降客数は約180万人にものぼります。JR北海道が都市圏や市内と重複地域間などで運営しています。地図上の緑(JR)と青線(JR)、茶線(市内)の3本を合わせると50.6kmになります。国際ハブ空港の玄関口を都市の中心部と結ぶ鉄道等は新しい市街地形成に向けた新たな交通機関の整備が重要とされ続けています。



大学などの研究機関や医療機能が充実

札幌市には北海道大学をはじめ、複数の大学があり、約10万人の学生(人口比率)は全国の都市で高い水準にあります。人口10万人当たりの一般病院数は高い水準にあり、国内でも有数の医療機能が整備されています。

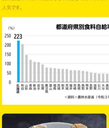
都心から近いウインタースポーツ環境

雪を楽しむ文化が根付いている札幌市には、市内でも有数のパウダースノーを楽しむことができるスキー場が近くにあります。

身近な文化芸術

2008年(平成19年)に「創造都市 さっぽろ芸術(市)」、2013年(平成25年)に「メディアアート都市」として、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が認定されました。

札幌文化芸術劇場 hitaru(ヒタル)は、札幌市内中心部にあるコンサートホール(Kitara)などの文化芸術施設が集う、市民が身近に文化芸術を楽しむことのできる環境です。


札幌文化芸術劇場 hitaru(ヒタル)
<資料>札幌市

札幌コンサートホール Kitara(キタラ)
<資料>札幌市

都市としての高いブランドイメージ

民間調査機関による魅力度ランキングにおいても、全国的に高い評価を受けています。特に観光都道府県の食品の満足度指数などが高くなっています。

食の魅力

北海道は食料自給率が都道府県別で1位であり、北海道産の農産物や食物が国内の食を支えています。

食品製造業事業や飲食店などが集まる札幌市は、新鮮で美味しい食材に恵まれています。

札幌ラーメン
<資料>札幌市

札幌スイーツ
<資料>札幌市

観光満足度の高さ

札幌都は、雄大な自然環境や豊富な食などが人気で、来訪者満足度は国内都市ランキング上位。観光地です。札幌市は北海道観光における都市であり、北海道における中心的な役割を担っています。北海アイヌも多く、観光客が魅力的な都市として評価されています。

YOSAKOIソーラン祭り
<資料>一般財団法人YOSAKOIソーラン祭り協賛事業者

さっぽろホールフェスト
<資料>札幌市

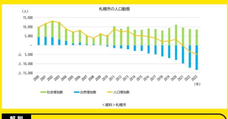
住みやすさ

札幌都は駅周辺へ近隣地区にバス通勤・通学時間が短い傾向。市内の通勤通学時も利用しやすい交通網の整備やオフィス賃料が全国一低い環境などにも、住むにも適した都市です。

札幌市の人口は、今後の予測で2040年代には100万人を割り込む見込みで、働く世代と高齢者の割合が変化していくことが予測されています。
これからの社会情勢を踏まえて、いかまちづくりや、仕組みを考え直すことが求められています。

人　口

札幌市の人口は、2009年（平成21）年をピークに減少局面に転じる見込（国立社会保障・人口問題研究所）となっています。一方、市内から他の都道府県市町への転出者数を上回る「社会増加（転入超過）」が続いてきましたが、これまで増加してきた札幌市の人口も減少していくことが予測されています。
また、65歳以上の高齢者人口は、一貫して増加し続け、2040年代には3人に一人が65歳以上となる見込みです。
近年、少子化が進んでいる一方で、訪問や転勤者などを理由とした20歳代の若年層が道外へ向かっている傾向も続いており、2040年代には、現在の半分程度の若年層が道外へ向かっていく傾向も続いていく、流れが生じる可能性があります。
このような人口構造の変化が予想される中、出生率の上昇や20歳代の若年層が道外へ出ていく流れの抑制を積極的にしていくことが求められています。



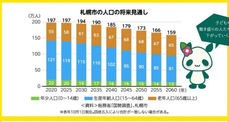
解説

自然増減と社会増減

自然増減
子どもが生まれる人口でくなることによる人口の増減。人口でくなる数よりも生まれる子どもの数が多くなれば、自然増加（プラスとなる。

社会増減
引っ越しでいた人口でふくべる（転入）出ていく（転出）ことによる人口の増減。転出者より転入者が多くなれば、社会増減はプラスとなる。

札幌は 2009 年（平成 21 年）に自然増減がマイナスとなり全ての人口減少が多くなっていることがまさに人口減少がはじまってきたのです。社会増減が人数に引っ越しでくる人口数が多かったので、人口は増え続けていました。
しかし、2021年（令和）3年において、社会増減が自然増減分を下回り、増え続けてきた札幌市の人口が減少局面を迎えております。



社会情勢

価値観やライフスタイルの多様化

札幌市では、住いの面や子育て環境を初めから望んで住む方もいれば住むも、転居など初めて暮らすことで多くの方が実現を目指してきました。札幌都市ブランドをよりも高めて多くの方に住んでこられるようにしていくことが求められています。

人生100年時代の到来

一人一人誰もが一生涯、いきいきと暮らせる2040年代を迎えようとしています。誰でも、これまでの「教育→仕事→引退」という人生ではなく、生涯を楽しむ人生を可能にする社会の実現を目指しています。
生涯学習や市民活動など、高齢者が社会参加できる環境を整えることや、プレイヤー対応など、健康に生活できることなどが大切になっています。

札幌市の30～40歳代は、この後のライフステージの中心的な世代にあたり、働き方や環境に関する考えかたを変えていきます。また、積極的に子どもの育ての経験が豊富で、健康的な生活を望む世代でもあります。

デジタル技術の急速な進歩

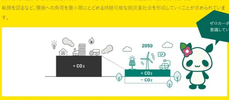
現在は、急速に進化しているデジタル技術を地方から発展し、新たな変革を起こすことにより、地方と都市の格差縮小、地方の活性化を進めています。将来においては情報が自由自在に移動できる社会、Society5.0の実現を目指しています。

札幌市においては、市民生活世界データの一体的な活用や、ICTの積極的な活用を推進し、社会全体のデジタル改革の実現に向けた取組を行い、生活をより一方向に変化させるデジタルトランスフォーメーション（DX）（生活が豊かになる事）を進めていきます。ただ、デジタル格差が生じないような取り組みをめざしています。

気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動き

気候変動による災害が世界各地で発生しています。2015年（平成27年）には、平均気温の上昇を抑える目的の国連の取り組み「パリ協定」が採択されたことを受け、2050年（令和32）までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする取り組みが進んでいます。温室効果ガスの一つである二酸化炭素（CO2）は、主に化石燃料を燃やすことにより発生するため、生活の豊かさと密接な関係にあることが考えられています。

また、日本国内のエネルギーは、原子力発電の減少に伴い、石炭、石油、天然ガスを始めとする海外からの多くを輸入に依存しており、エネルギーの安定的な確保が課題となっています。



都市のリニューアル

1972年（昭和47年）の第11回冬季オリンピック開催による都市整備をきかっとして、地下鉄や区画整理などの公共施設が作られてきました。都心を中心に拡散型から立体的・集積的まちに変わり、開発が進められてきました。
これにより、現在、札幌道新幹線の建設工事が進められており、札幌まで延伸されると、人の流れや物流がさらに変化していくことが予測されます。北海道の新幹線の開業に伴い、これまでの時間を最大限に活用し、様々なイノベーションを起こしていく必要があります。
今後の人口減少は、現在のペプリックスペースの削減、公園、広場、公開空地などを新たな価値に、人が集まるような魅力を提供することで、公共や民間事業が、人と人とが交流し、元気な都市を生み出し、生活の豊かさにつながっていくことが重要です。
また、公共施設のリニューアルは、適正化と機能向上だけでなく、防災機能との複合化、利便性、コスト、収益性の観点などを考えていきます。

北海道新幹線　H5系

北4西3地区における再開発のイメージ

さっぽろまめちしき

札幌市10区のうち、いちばん広い区はどこ？

札幌市の面積は全部で1,121 ㎢。そのうち**南区**の面積は657.48㎢で、札幌市の約58.7%を占め**ダントツの1位です。**南区はなんと、東京都の23区（627.53 ㎢）よりも広い面積。ちなみに、札幌市は1972年に7区（中央区、北区、東区、白石区、豊平区、南区）でスタート。人口増加などの理由でさらに区が分かれて、今の10区になりました。

頻発する自然災害

2018年（平成30年）に発生した北海道胆振東部地震をはじめとして、近年、北海道においても自然災害が増え、自然現象による被害が拡大しています。札幌市は、活断層等の多さから、地震や内水氾濫による被害のリスクも高くなっています。
こうした被災のリスクについて現在や近い将来もやこはもとより、自然災害などの危機に直面しても、人命を守り、被害や影響を最小限に抑えていくことが必要です。
災害時には、防災情報の適切な提供が重要となります。マイナンバーカードを活用したオンラインでの被災者支援システムや、被災者に早くの生活に戻れるような取組など、自分自身の予防のほか、自助や共助、公助に基づいた防災対策が必要です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大

2020年（令和2年）に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、札幌市においても多大な影響が出ており、日常生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。
例えば、外出や人との交流の機会が減少し、その結果、精神的な不安など健康上の問題が心配されてきていることも問題への対応には、感染症の対策を徹底しながら活動できるような取り組みや、オンライン等を活用した人との交流や運動ができるような場などが必要になります。
また、人との接触を減らすことも、その一つの対策であると言われていますが、感染症が広がらないようにすることが重要になります。
そのためには、医療現場などにあるために医療に、感染症大流行には、医療などの重要な設備を確実に行っていくことが重要です。また、感染症の広がりの状況などの把握のために、臨床検査を実施するための取組も重要になります。